

第6学年 国語科学習指導案

児 童 6年2組 男12名 女14名 計26名

1 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう

教材名 「平和のとりでを築く」

「自分の考えを発信しよう」 (光村図書 6年下)

学習指導要領 第5・6学年<読むこと>

- ・ 目 標：「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」
- ・ 主たる指導事項：「目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。」
＜読（１）イ＞
「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実や感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。」
＜読（１）ウ＞

2 単元について

(1) 児童について

児童は、6年生になってからこれまでに、「生き物はつながりの中に」で、文章に即して段落ごとに要点をとらえたり、重要語句を見つけ、中心文を並び替えたりしながら説明的な文章の構成を読み取る学習をしてきた。また、筆者の考えを読み取り、読者に対する問いかけの文から自分はどうかといった自分の考えをもつ学習もしてきている。これらの学習を通して、重要語句や中心文から説明的な文章全体の構成の特徴を読み取ったり、事象と意見とを区別しながら筆者の伝えたいことは何なのかを自分なりに考えたりすることができるようになってきている。

しかし、個々の読みには差があり、説明的な文章全体を要約したり、筆者の訴えに対して自分はどうか考えるのかを自分なりにまとめて書いたりすることのできる児童は少ない。段落ごとに細かく読み取るだけでなく、事象と意見を区別し、文章全体や文章構成を意識しながら筆者が訴えたいことを読み取り、自分なりに意見をまとめることができるようにしていきたい。

(2) 教材について

本単元では、「筆者が訴えたいことを読み取り、それについて自分の考えをもつこと」を主なねらいとする。

「平和のとりでを築く」は、戦争で広島に原子爆弾が投下され、傷だらけになった原爆ドームが、多くの人々の平和を願う心によって世界遺産となった経緯を述べた説明的な文章である。本教材は、「話題提示－説明－まとめ」という大きく3つのまとまりで構成されている。「話題提示」では、原爆ドームの存在と筆者の思いを紹介し、「説明」では、「日本の遺産として原爆ドームがたどってきた歴史」と「世界遺産となった原爆ドーム」の2つに分けて説明している。「まとめ」では、原爆ドームが世界の人々にとって平和を訴える大切な遺産であることが述べられ、最後に、原爆ドームを大切にすることによって平和を願う筆者の強い思いの文で締めくくられている。文章は簡潔で分かりやすく、文と文・段落と段落の関係も比較的とらえやすい作品である。

原爆ドームの話題から世界の平和を強く願う筆者の思いが、題名やまとめに凝縮されているこの説明的な文章は、未来を担う一員である6年生の子どもたちに、世界に目を向けさせ、「平和」について自分なりに考えさせることができる作品であると考えられる。

(3) 指導に当たって

本単元では、次のように学習を進めていきたい。

第1次では、全文を読み、学習の見通しをもたせる。その時、教材文を学習した後には自分の考えを発信する活動を確認し、目的意識をもって活動できるようにする。

第2次では、意味段落ごとの読み取りを行い、「原爆ドームがたどった歴史」と「筆者の考え」を対応させながら学習を進める。そして、事実と時間の流れをおさえながら正確に読み取り、筆者が伝えなかったことにつなげたい。

第3次では、「平和のとりでを築く」を読んで戦争や平和について疑問に思ったことや詳しく知りたいことを考える。そして、平和に関わるさまざまな資料を集めて読み、自分の考えを明確に伝えるために文章の構成等を工夫して、意見文を書かせたい。

3 指導目標

【国語への関心・意欲・態度】

- ・ 筆者の訴えを受けて自分なりの考えをもち、「平和」について関心をもって読んだり、話し合ったり、書いたりしようとする。

【書くこと】

- ・ 自分の課題に対して書く事柄を収集し、全体を見通して整理している。 <書(1)ア>
- ・ 自分の考えを明確に表現するために、材料を選び直したり、効果的な文章の構成を考えたりしている。 <書(1)イ>
- ・ 事実と意見を区別して書いたり、対立する意見に反論を述べたりしている。 <書(1)ウ>

【読むこと】

- ・ 自分の課題に対して本を選び、比べて読むなど効果的な読みができる。 <読(1)イ>
- ・ 筆者の考えをまとめ、自分はどのように考えるかを明確にしながら読んでいる。 <読(1)ウ>

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・ 自分の目的や意図に応じた文章の構成を理解し、活用することができる。 <伝(1)イ(キ)>

4 指導計画（1 4 時間）読む 8 時間 書く 6 時間

段階	時	学習活動	評価規準
第1次	1	・ 全文を読み、初発の感想を書く。	・ 題名や本文についての感想を書いている。 <関・意・態>
	2	・ 文章構成や単元のねらいをもとに、学習課題を立てる。	・ 文章の大まかな構成をつかんで概要をとらえ、学習課題をもつことができる。 <読(1)ウ>
第2次	3	・ ①段落を読み、原爆ドームに対する筆者の思いを読み取る。	・ 原爆ドームに対する筆者の思いを読み取っている。 <読(1)ウ>
	4	・ ②～⑤段落を読み、物産陳列館や原爆ドームの様子を読み取る。	・ 物産陳列館が原爆ドームになるまでの過程を読み取っている。 <読(1)ウ>
	5	・ ⑥～⑧段落を読み、少女の日記から原爆ドームを残そうとする市民の思いを読み取る。	・ 原爆ドームが永久保存されることになるまでの過程を読み取っている。 <読(1)ウ>
	6	・ ⑨～⑪段落を読み、原爆ドームが世界遺産になるまでの過程を読み取る。	・ 原爆ドームが世界遺産になるまでの過程を読み取っている。 <読(1)ウ>
	7	・ ⑫⑬段落を読み、筆者が訴えたいことを読み取る。	・ 筆者が訴えようとしていることを読み取っている。 <読(1)ウ>
	8	・ これまでの学習を振り返り、文章構成や各段落の要点をもとに本文を要約する。	・ 要旨をとらえて本文を要約している。 <読(1)ウ>
第3次	9	・ 「平和のとりでを築く」を読んで戦争や平和について疑問に思ったことや詳しく知りたいことを考え課題を見いだす。	・ 平和について疑問に思ったことや詳しく知りたいことを考えようとしている。 <書(1)ア>
	10	・ 自分の考えをまとめるために、インターネットや図書資料から適切な資料を探し選ぶ。	・ 課題について調べるために、インターネットや図書資料などたくさんの資料を集めようとする。 <読(1)イ><書(1)ア>
	11	・ 集めた資料をもとに、主張がよく伝わる構成を考える。	・ 集めた資料をもとに、主張がよく伝わる構成を考えている。 <書(1)イ>
	12	・ 自分の考えを書き、まとめる。	・ 主張がよく伝わるように詳しく文章を書きまとめている。 <書(1)イ>
	13	・ 文章を推敲し、清書する。	
	14	・ 主張を発表し合い、意見や感想を交流する。 ・ 単元の学習を振り返る。	・ 友だちの主張や表現の仕方に対して、いろいろな視点で感想を発表しようとしている。 <関・意・態>

5 本時の指導

(1) 目標

筆者が読者に伝えたいことを、読み取ることができる。

(2) 指導に当たって

①対話について

文末表現やキーワードなどをもとに、筆者が読者に伝えたいことを考えてノートに書く。そして、自分と同じ考えや違う考えに気づかせるために、各自が考えた事を対話させる。さらに友達の考えに共感や質問をすることで、自分の考えを補充・深化・統合させる。

②学び合いについて

自分の考えや対話で得た考えを全体で発表し、平和についての様々な考えを広めたい。多様な考えの意見を交流することで、平和に対する考えをさらに価値ある考えに深めたい。

(3) 展開

段階	時間	学習内容と活動 活動（・） 主発問（○）	指導上の留意点（・）と評価（◎）
見通す	5分	1 前時の学習を想起する。 ・前時までの文章構成を確認する。 2 本時の課題を確認する。 「平和のとりでを築く」で、筆者は何を伝えたいのだろう。	・前時までの学習の流れを掲示し、見通しをもたせる。 ・本時は筆者の「伝えたいこと」すなわち「強い願い」を読み取ることをおさえる。
深める	35分	3 学習場面の音読をする。 ・一斉読み 4 学習課題を解決する。 (1) 筆者の考えや伝えたいことが書いている段落を見つける。 ・サイドラインを引く。 (2) 筆者の主張を読み取る。 ○「原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ」とはどういうことだろう。 ・ノートに考えを書く。 (3) 自分が読み取ったことについて対話する。 T：「原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ」とはどういうことか話し合しましょう。 A： わたしは、原爆ドームには二度と戦争をしないようにと願いを込められていると思います。なぜなら、戦争は多くの人を不幸にしてしまうからです。 B： ぼくは、原爆ドームには核兵器を二度と使わないようにと願いが込められていると思います。理由は、核兵器はとても悲惨な兵器だからです。 A： どちらも、原爆ドームを見る世界中の人が、二度と戦争をしないで平和な世の中をいつまでも続けて欲しいという願いが込められているということですね。なぜなら、戦争は人間が始めるものだから、絶対に戦争をしない核兵器は使わないという気持ちがあれば戦争は起きないからです。	・文末表現やキーワードに注意しながら⑫⑬段落を音読する。 ・筆者が伝えたい事だと思う部分に線を引かせる。⑬段落の「人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ」特に「～なのだ」という文末表現から、⑬段落に筆者の考えや伝えたいことが強く書かれていることに気づかせる。そして、そこから何を伝えたいのかをノートに書く。 ・根拠をはっきりさせて話し、互いの考えを聞き合うように指示する。
		(4) 全体で交流し、課題のまとめをする。 ・ノートにまとめを書く。	・ペアで話し合ったことを発表させ、自分の考えと比べることにより、平和に対する考えを深めさせる。 ・「世界遺産」と「世界の遺産」の違いを考えさせ、筆者は全世界の人々に願いを伝えたいことに気づかせる。 ・「世界中の人々」「平和」を使ってまとめを書かせる。 ◎全体交流をもとに、筆者が何を伝えたいか

			をとらえてまとめているか。
		原爆ドームを見る世界中の人が二度と戦争をしないという気持ちを持ち、平和な世の中をいつまでも続けて欲しい。	
まとめる	5分	5 本時の学習を振り返る	・授業の感想を発表し学習を振り返る。
		6 次時の学習内容を知る。	・筆者の伝えたいことに対して自分の考えをまとめる事を確認する。

< 具体の評価規準と支援 >

A：筆者が読者に伝えたいことを、教材文から読み取ったことをもとに自分の言葉も加えてまとめている。

B：筆者が読者に伝えたいことを、教材文から読み取ったことをもとにまとめている。

C 児への支援

友達の考えに対して、どんなことを感じたかを書かせる。

(4) 板書計画

平和な世の中をいつまでも続けて欲しい。

原爆ドームを見る世界中の人が、

原爆ドームの写真

「平和のとりでを築く」で、作者は何を伝えたいのだろう。

戦争は人間が始めるもの。だから、絶対に戦争をしない核兵器は使わないという気持ちがあれば戦争は起きない。

原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ。

二度と戦争をしないように。なぜなら、戦争は多くの人を不幸にする。

世界の遺産とは、世界の人々の遺産。だから、全世界の人々に願いを伝えたい。

核兵器を二度と使わないように。核兵器はとてもひさんな兵器だから。

平和のとりでを築く

大牟田 稔